

チャン・テイ・ヒエン

ベトナム語の通訳を続けて25年

〈日本とベトナムの間で〉



プロフィール

一九七三年ベトナム生まれ。一九九九年ハノイ外国語大学（現ハノイ大学）日本語学部卒業。同年結婚を機に来日し、大阪外国語大学大学院、大阪大学大学院にて通訳や翻訳に関する研究を続け、二〇〇一年法務省法務総合研究所国際協力部で法整備支援に関する通訳翻訳業務を開始したことが転機となり、その後司法機関や省庁・企業などの通訳・翻訳業務等にて幅広く活躍中。

○司会 ただいまより令和五年度講座「生きること」の第四回目を開催いたします。

それでは、本日の講師でありますチャン・ティ・ヒエンさんをご紹介します。よろしくお願いいたします。います。

チャン・ティ・ヒエンさんは、一九七三年生まれで、ベトナム社会主義共和国のタイビン省出身でいらつしゃいます。日本での看護師養成プログラム候補生として選抜されたため、ナムディン看護大学を中退し、ハノイの日本語学校で日本語を学んだ後、日本で看護師になるための試験を受ける目的で一九九六年に初来日をされました。帰国後もハノイ外国語大学日本語を学びつつ、ホンダベトナムという会社に入社されました。一九九九年、ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学日本語学部を卒業され、他の大学の日本語講師を務めた後、ご結婚を機に再び来日されました。来日後も大学院で通訳・翻訳について学ばれ、二〇〇七年、大阪外国語大学大学院言語社会研究科通訳翻訳学専修コースを修了されました。二〇一二年には大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程を単位取得退学されました。

通訳・翻訳業務に携わるきっかけといたしましては、二〇〇一年に法務省の法務総合研究所で法整備支援に関わる通訳・翻訳業務を開始したことでございまして、現在は各司法機関・省庁・企業などの通訳・翻訳業務でご活躍されています。

本日はチャン・ティ・ヒエンさんが体験してこられたことのほんの一部ではございますが、お話をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○チャン・ティ・ヒエン どうもありがとうございます。皆様、こんにちは。初めまして、私はチャン・ティ・ヒエンと申します。チャンというのが、私の姓です。ヒエンというのは、私の名です。真ん中のティは、女性にだけ使われる名前です。

本日、私は「生きること」というテーマについて発表させていただきます。ご依頼いただいたのは、これまで日本で経験したこと、今後の日本とベトナムの関係のこと、そしてこれからどうしたら良いのかということについてでした。ベトナムのことについて詳しいベトナム人がたくさんいるにもかかわらず、私のような経験の浅い人間に依頼していただき、大変恐縮いたします。

では、これから発表させていただきますと思います。今日は楽しく私の発表を聞いてくださいね。皆さんがここに参加していただいたのは、何か自分の生きがいとか、自分の生き方とか、今後の夢とかを探しに来られたのではないかと思えます。私の発表が皆さんにとって何か勇気と希望、感動を与えることができれば大変幸いです。発表は長いので、座らせていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

まず皆さんに聞きたいのですけれども、これまでにベトナムに行ったことがある人、手を挙げていただいても良いですか。すごいですね、ここにいるほとんどの人たちが行っています。皆さん、振り返ってみてくださいよ。もう一度手を挙げてください。ありがとうございます。ベトナムに行ったことがない人はほとんどいないですね。

ベトナムを日本語で書くとき、昔はヴィエトナムという書き方もありましたが、今は殆どベト

ナムという表記が使われています。一九七五年、南北に分断されていたベトナムが統一されたときに、名前がベトナム社会主義共和国になりました。今ではホーチミン市はとて有名ですが、元々はサイゴンと呼ばれていて、統一後にホーチミン市という名前に変わったのです。

ベトナムというのは、紀元前の遠い昔に国がつけられました。西暦というのは、キリストが生まれた時を基準にしていますが、キリストが生きていたら二〇二三歳になるのですね。ベトナムはキリストが生まれた時よりも三千年も昔に国があったと言われています。そのころの国の名前はヴァンランでした。古代のベトナム人の祖先は、長江の南から現在のベトナムの北部に至る広大な地域に暮らしており、百越と呼ばれていました。現在のベトナムで一番大きな民族はキン族と呼ばれていますが、その祖先は、多様な民族の集合体だったということです。

その後、漢民族の南下に伴い、混ざりあったり、南に押し出されたりしながら、今のベトナムの北部にヴァンラン国を造ったのです。

「ベトナム」以外のベトナムの呼び方として「安南」というのがあります。この呼び方のもとには中国が唐の時代にベトナムの北部に置いていた安南都護府だと言われています。ベトナムは長く中国の支配下に置かれていましたが、十世紀に独立した後は、大越とか越南が国の名前でした。ゴ朝、ディン朝、レ朝、リ朝、チャン朝、グエン朝などです。ベトナム人の苗字は殆どこれらの王朝の名前と同じです。私はチャンだからチャン朝の子孫です。グエン朝は最後の王朝で、グエンはベトナム人に一番多い姓になっています。ベトナムを植民地にしたフランスは、ベトナムを

三つに分割統治して、グエン朝の都があつた中部をアンナンと名付け、ベトナム全体もアンナンと呼んでいました。実は私の会社も安南株式会社と言います。日本もベトナムを安南（アンナン）と呼んでいた時期がありました。この安南は元々はベトナムを外の人が呼ぶ呼び方なのです。ベトナムには、たくさん言語があります。ベトナム語だけではなくて、たくさん少数民族がいて、それぞれ違う言語を話しています。私たちは少数民族の人たちとしゃべっても何をしゃべっているのか分からないのですよ。本当に全然分からない。ベトナム語は昔からあるのですけれど、文字がありませんでした。ベトナムは中国に近く、長い間中国の支配下にあつたので、漢字が使われていました。ベトナムでは、大体今から三百五十年か四百年ぐらい前にやっと自分の文字を作りました。また、四百年ぐらい前にスペイン人がキリスト教の宣教のためにベトナムにやつて来て、ベトナム人の会話を聞いて、それをアルファベットで表しました。

ところで、ベトナムは十世紀に中国の支配から独立した後、何度も中国の侵略をはね返しました。中国と戦つた歴代の王朝の中でも最も強かつたのは、チャン朝かもしれません。なんと、日本の元寇と同じ時期にモンゴルの襲来を三度も撃退しているのです。その中心となつた王族のチャン・フン・ダオは、ベトナムでは最も有名な神様になって今も祀られています。また、中国から独立する前の漢の時代には、チュン姉妹が漢に対して反乱を起こし、象に乗って戦いました。だから、ベトナムの女性はとても強いのです。特にチャンの女性はとても強いのですよ。夫とけんかをしたら必ず勝ちます。好きなどころに行きます。夫の意見を聞かないのですよ。でも、ベト

ナムには、なぜか一夫多妻制がありました。ベトナムはやはり中国に支配されていた時代の影響が大きいので、考え方が中国に似ているところがあります。ベトナムのキン族は八十五%が仏教徒ですが、同時に祖先祭祀や儒教なども文化の中に根付いています。

私のお父さんには、妻が一人しかないことになっています。でも、父はフランスとの戦争、アメリカとの戦争、あとラオスの支援にも行きましたので、もしかしたら戦争に行った先で子どもをつくったかもしれません、私は知りません。ちなみに、ベトナムの気候というのは、日本と同じように北部と南部で違いがあるのですけれども、北部では四つの季節があります。南のホーチミンには、乾季と雨季があります。フランスやアメリカとの戦争の時に山を従軍していた兵士は、特に雨季にはヒルにかまれたり、蚊に刺されたりして、多くの兵士が病気になったそうです。私の義理の兄は戦車兵でしたが、従軍した時にマラリアに罹ったので、今でも悪寒がしたり、熱が出たりします。

またベトナムの歴史のことについて話をさせていたきたいのですけれども、ベトナムの歴史は侵略者との戦いの歴史と言っても過言ではありません。中国、モンゴルからの侵略があり、植民地化されてからは、フランス、日本、アメリカなどにも侵略されました。そして、国が分断されたせいで、同じ民族同士で戦わないといけなくなったり、隣のラオスで戦ったり、カンボジアではポル・ポトと戦ったりしなければならなくなりました。ベトナム軍隊がカンボジアをポル・ポトから解放させたということも重要です。北部の人たちも、私の村の人もたくさん参加しま

した。そしてたくさんの人が亡くなったのですよ。だからカンボジアにもたくさんベトナムの兵士たちのお墓があります。遺骨がまだたくさん残っているのです。そして、最後に中国とも戦うことになりました。植民地化されて以降は、中国だけでなく、ヨーロッパや日本やアメリカなどの広い国際的な関係の中に巻き込まれ、さまざまな支配や侵略に対応しないといけなくなりまして。人間というのは本当に危なくて恐ろしいものですよ。だから本当に気をつけないと、市民もそうですけども、生きるということ、勉強をしないと、いつの間にか国が乗っ取られてしまうのですよ。乗っ取られてしまうというのは、自分の尊厳も侵害されるし、何も言えない、何も反抗することができません。

ベトナムの植民地時代というのは、初めはフランスに植民地にされました。一八五八年から一九五四年まで、なぜ一九五四年までなのか、そのときジュネーブ協定がスイスで締結されたからです。そのジュネーブ協定に参加した国を皆さんはご存じですか。ベトナム、ラオス、それから中国、それからフランス、それからアメリカなどが参加しました。それで締結しましたけれども、昔の人たちは何を考えたのか分からないのです。私だったらもつと根掘り葉掘り条件を聞いて、私の国にとって不利な条件だったら絶対にサインしなかつたでしょう。私のお父さんもフランスからの解放のための戦争に参加したのですよ。九年間ずっと参加しました。そしてアメリカとの戦争に参加した後は、ラオスにも行きました。なぜラオスかというと、ベトナム、ラオス、カンボジアの三つの国がフランスに植民地にされたあと、ラオスはベトナムと同じような立場に

置かれていたからです。

話を戻しますが、そのジュネーブ協定の条文の中では、フランスがベトナムなどから撤退しなければならぬことと、それからもう一つ大事なことは、北ベトナムと南ベトナムに分断されることになったということです。皆さんは、北緯十七度線という言葉聞いたことがありますか。北緯十七度のところに、ベンハイ川という川があつて、ここが国境になっていました。ジュネーブ協定の後、フランスはいなくなりましたが、代わりにアメリカがやって来てベトナムとの戦争を始めました。

アメリカが来る前には、日本もベトナムを侵略していました。日本軍も北部から入ってきて、一九四一年から一九四五年までベトナムを支配下に置きました。主な目的は日本軍の食糧の供給のためだったようですが、食料の他に麻や油の生産も強制していました。日本軍は食料や物資の他にも燃料も足らなかつたので、飛行機の燃料の代わりにする植物油をたくさん取るために、稲の代わりにゴマの生産を強制したということです。それから、麻を作らせた目的は、繊維を取って衣類や袋や縄を作るためと言われていますが、この麻は大麻で、マリファナなどが作られる麻と近く、ベトナムで作られた麻からは実際にマリファナのようなものが作られていたかもしれません。日本の前にはフランスが、日本の後にはアメリカがやってきて、大麻草を好んで使用した人もいました。人生の悩みを忘れたり、戦争の緊張から逃れたりするためにたくさん大麻草を使ったのです。昔、中国ではアヘン戦争もありましたね。ベトナムも影響がありました。植民地支

配をした人が、たくさんアヘンを中国人とかベトナム人に対して使わせましたね。結果としては、多くのベトナムの人がアヘン中毒になりました。覚せい剤は大麻やアヘンとは違いますが、日本の技術者によって生み出されたものです。第二次世界大戦中には世界中の国で使われました。ケシから作られたヘロインもベトナムでたくさん使われていました。ベトナムでは特に北部の国境に近い、山岳地帯でたくさんケシが栽培されました。もちろん違法薬物なのでベトナムでも生産や製造が禁止されています。でも、私が通訳をしたときにベトナム人がたくさんヘロインを密輸してきたことがあります。一番多かったのは、いつときに十七キロぐらいのヘロインを車のタイヤの中に入れて密輸しようとした事件もありました。

日本は真珠湾を攻撃してアメリカを憤慨させ、太平洋戦争が始まりました。この間も、日本軍はベトナムを支配し、ベトナムの人々に様々な災厄をもたらしました。先ほどもお話しましたように、稲以外の作物を強制的に作らせたり、ベトナム人が貯めていた米を日本軍のために強制的に提出させたりしたために、戦争が終わるころには洪水などの影響もあって、多くのベトナム人が餓死しました。一九四五年にアメリカが原子爆弾を落として日本は降伏しました。そして、日本はベトナムから撤退しました。しかし、ベトナムに十万人ぐらいいた日本兵のうち、かなりの数がベトナムに残って日本に戻らなかつたのですよ。彼らは新しいベトナム人と呼ばれ、ベトナムの名前に改名したのですよ。日本の侵略に矛盾を感じていた人たちもいたのですね。

日本が降伏した後、ベトナムはすぐに独立を宣言しました。しかし、翌年、一九四六年にすぐ

にフランスが戻ってきました。先ほど申しましたように、一九五四年にやっとフランスは出てきました。それまでの間に、ベトナムでは、土地改革が行われました。地主の土地を没収して貧しい人達が使えらるようになりました。その時には、いろいろな混乱が起こり、多くの人たちが殺されたそうです。のちにホーチミンは、このことについて謝罪しています。やっとフランスが出て行つたと思つたら、今度はアメリカがやつてきました。アメリカは共産主義が世界中に広がることを恐れていたので、南北に分断されていたベトナムのうちキリスト教徒のゴ・ディン・ジエムが政権を握つていた南ベトナムを支援するようになりました。その間には、北部から南部に移住した兄弟がいて、兄弟同士で戦つたということもあつたようです。アメリカとの戦争の間、また多くの人が亡くなりましたが、ホーチミンの指導のもとで、なんとかアメリカをはね返し、一九七五年四月三十日に戦争が終わり、翌年、南北は統一されました。

アメリカが支援していた南ベトナムには資本家が沢山いました。そして、アメリカの傀儡政権と密接に協力していました。南北統一の前後、多くの人がアメリカなどの海外に移住し、あるいは難民となつて逃げていきました。フランスのときもそうでした。一九四五年と一九五四年の二度にわたつて、多くのフランス人が大型の船でベトナムの財産や貴重なものを沢山持ってフランスに帰って行きました。その時も、キリスト教徒やフランスの植民地支配に協力していた人たちが船に乗つて、フランスに渡つていきました。

日本軍がベトナムにいたところにベトナムの北部だけでも二百万人の人が亡くなつてしまつた

という話は、先ほども少しふれました。稲を作らせてくれないし、作った米も持っていかれてしまったからです。そのため、本当に食べ物がなくなつて、死んだ人たちがたくさんいました。二度とベトナム人を支配していじめようとしないで欲しいです。外国人がベトナムに来て、戦争に巻き込むことをしてほしくありません。本当にたくさんの人たちが亡くなったのですよ。私が小さい頃、私の家は牛を育てていました。私も牛を連れて草を食べさせることをしていました。その時に見たのですが、私の家の周りや、村のいろいろなところに、たくさん頭蓋骨があつたのですよ。皆さんは頭蓋骨を見たことがありますか。日本では火葬をするので滅多に見られないですね。私は医療大学のときにも頭蓋骨を使って実習を受けたことがあるので、慣れていません。私の村で見た頭蓋骨は、目とか鼻のところに草が生えていました。私はそれを拾って、草を切つて牛にあげたりしました。そのぐらいたくさん頭蓋骨があつたのです。その頃は、戦争だけでなく、病気が今みたいにコロナの病気ではなくて、昔はコレラとか別のいろいろな感染症があつて、科学技術も進歩していなかつたので、多くの命が失われたのです。私のおばあさんが話してくれたその頃の話というのは、本当に怖いのですよ。人を埋葬するときには、一人ずつ埋葬するのではなく、大きな穴を掘つて、ひもを投げて足のところから引つ張つて穴に入れて、多くの人を一度に埋葬したそうです。本当に恐ろしい時代でした。私たちは直接経験したわけではなくて、おばあさんから話を聞いただけです。本当に大変な時代だったと思います。

また話を戻しますけれども、一九七三年にアメリカが撤退すると、南ベトナム側が負けること

を恐れた多くの資産家が財産を集めて、それから南の政権に賄賂を渡して、アメリカなどに移住したりしました。残った人たちも、カンボジアの戦争にも行きたくないし、ベトナムで貧しい生活をしたくないので、ポートピープルと呼ばれる難民となって海外に脱出しました。漂流してたり着いたのは、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、香港などの難民キャンプでした。先ほどご紹介にありましたように、私が日本にやって来てから最初にした仕事は、法務省法務総合研究所国際協力部で法整備支援のJICA（独立行政法人国際協力機構）のプロジェクトでした。その後、私はすぐに財団法人アジア福祉教育財団本部関西支部でインドシナ難民の支援事業で働いたのです。私が働いたころ、事務所は神戸駅の日本生命ビルの十一階にありました。私はここで相談者のために通訳の仕事をしました。その時にそこで働いていなければ、私は日本にベトナム人の難民がいるということを知らなかつたでしょう。そこで働いて初めてベトナム人に関する司法通訳、翻訳のニーズがあるということも分かつたのです。その後、私は難民事業本部関西支部の仕事を辞めて、本格的に司法通訳、翻訳の仕事を始めました。なぜかというところ、収入が多い方がいいと思つたからです。時給五千円とか六千円があつたほうが良いですよ。難民事業本部関西支部で働いたら、時給千円ぐらいしかもらつていないから、私はその仕事を辞めたのですけれども、難民事業本部関西支部で働いたときにいろいろな経験をさせていただき、いろいろなことを知ることができました。難民の人が日本に来たときには、いろいろな難民の収容施設に収容されていまして、当然海外に行くことができませんでした。収容施設に国連の職員

がやって来て、あなたはどこに行きたいですかと聞きます。例えばアメリカとかカナダとかイギリスとかフランスとか、いろいろな国があるのですけれども、たまに日本に行きたいという人もいます。しかし、日本に来て日本の社会の中で成功した人はあまりいません。やはり、日本の社会で、難民の人が生きることが、いろいろと困難があったのだと思います。最近では、ベトナム人の犯罪の話が沢山増えてきたと感じますが、これは難民として日本に来たベトナム人のことではなく、新しく来たベトナム人のオーバーステイや資格外活動の話が多いです。難民の人たちは、日本に定住する権利をもっているのです、新しく来た技能実習生や日本語を勉強している学生とは、日本の社会との関係が全く違うのです。

難民の人たちは、海外に脱出するための船に乗る前に当然いろいろなものを準備しないといけなかったのです。水、燃料、貴金属などをたくさん準備しないとイケないですよ。でも誰も自分の身分証明書とか結婚証明書とか、持って行かなかったのですよ。そして、やっと海外に出ても途中で海賊に襲われて全財産を奪われたり、あるいは強姦殺人をされたりした場合も沢山ありました。途中で台風に遭って船が転覆したり、餓死したりすることもあるといたくさんありました。一か月間、二か月間漂流して、食べ物がなくて燃料もなくなって、寒くて喉が渴いて死にそうになることもあったそうです。

日本にやって来ても、昔は罪を犯すようなベトナム人はほとんどいませんでした。ベトナム人は一生懸命働く民族です。ベトナム難民の人は、日本にやって来て、まず長崎県の大村入国管理セン

ターというところで六か月間ぐらい収容されて、日本語を勉強してから働きました。その頃の日本は高度経済成長期だったので、すぐに日雇いの仕事で雇われるようになったそうです。ベトナム人は一生懸命に働いたので、ベトナムに残っている家族や親族にたくさん送金することができました。また、その頃のベトナムには、電化製品がほとんどないという地域も結構ありました。日本では高度経済成長期だったので、いろいろなものが捨てられました。それで難民の人たちは、いろいろな中古の家電製品を集めて梱包して、ベトナムとかラオスに送ったのですよ。私はハノイで日本語を勉強していた時、中古品のマーケットに行ったときに、日本の家電製品がいっぱい販売されているのを見ました。当時パナソニックとかソニーとかいろいろいろいろなものが販売されていました。

今では日本の企業がベトナムに進出して新品を買えるようになりましたので、ベトナム人はもう中古のものを買いません。中古品の輸入自体が禁止になって、輸入したらベトナムの政府に捕まえられてしまうので、誰も中古の物を売らなくなりました。それでも中古の物を輸出するには分解しないといけません。一時は、分解してスクラップとして向こうに持って行って、また組み立てるという方法もありました。ベトナム人は新品しか買わなくなったので、もともとこのような仕事をしていた日本のベトナム難民の人たちの一部は、他の東南アジアの国や中東の国などに中古の日本製品を売るようになりました。さらに最近になると、日本の側でリサイクルの規制が厳しくなってきたので、廃品を回収することが難しくなり、今では海外に輸出するリサイクル業自体が難しくなっています。

難民として日本に来たベトナム人の中には、結局、強制送還されることになった人もいました。しかし、強制送還をされたくないからと、ずっと入管の施設に入ったままの人もいます。長い人は数年間とか、ずっと入管の施設に入ったままです。その後、入管では仮放免の制度ができたので、彼らは仮放免されました。仮放免の場合は一か月に一回入管に出頭しなければなりません。ただし、仮放免の条件として、働いてはいけないということがありました。だから彼らは一度仮放免されても、また再び仕事をすることもできないから、仕方なく万引きをしたりする人もいたのです。万引きをして、また捕まって刑務所に入りにするようになるのです。あるご夫婦などは、夫は刑務所に入って、妻は外にいて、今度は逆に妻が入って、夫が外に出るとか、そのようなことをずっと繰り返したという例もありました。今では、刑務所から出た人たちも皆さるん年も取ったからか、ほとんど犯罪をしなくなりました。一部の人は本当に強制送還をされたので、もう日本に戻ってくることもできなくなつたのです。でも最近では仮放免という制度もさらに緩和されて、働くことができるようになったのだそうです。資格外活動を申請すれば週に二十八時間働くことができるようになったのです。

日本には、外国人を受け入れるための二十九の在留資格があります。私は元々日本人の配偶者として日本に来ました。今では、永住権もっています。入管で通訳した場合は電話通訳を頼まれることが多いのです。入管や現場に直接行く場合もありますが、最近では殆ど電話通訳で違反調査などの通訳を依頼されるのです。刑事裁判で有罪判決を受けて在留期限が切れて入国管理及

び難民認定法違反になった事件の場合、裁判を受けた後、判決の日に入管が傍聴席に座って、判決が言い渡された後令状が發布されるので拘置所に行つて荷物などを受けとつて、確認してから入管の車で入管に移動して手続きをすることになります。犯罪事実を確認し、違反した場合本国に強制送還することになります。パスポートの期限とお金があれば早期に帰国することができます。逆に旅券を紛失したりした場合、旅券を再発行しなければなりません。身柄が拘束された場合は自分で旅券を再発行することができないので、入管が被疑者の代わりにベトナムの領事館に旅券の再発行の申請をしなければなりません。六か月間から一年以上も待たなければならぬ場合が多いです。なぜならば旅券を再発行するお金がないのと身分証明証がないので、そもそもベトナム人かどうかさえわかりません。ベトナムの領事館はなかなか発行してもらえないのです。その場合、入管の施設の中に公衆電話があるので、本国に連絡しなければなりません。家族に頼んで住民票をベトナムから入管に送つて貰つてから、やつとパスポートの手続きをすることができます。旅券の再申請の場合、一万円から二万円かかるのと、飛行機のチケットを買うお金も自分で払わなければなりません。その間に、病気になるつて入管で治療や手術を受けなければならぬ例も沢山あります。入管の施設に入る前から外で体調不良になっていた人も多いです。例えばお金が足りないから悪質金融業者のお金を貸してくれるベトナム人暴力団からお金を借りてギャンブルして負けてしまつて、取り立てられて暴行されたような例です。監禁暴行されると身体全体が傷だらけになるのです。指を欠損したベトナム人がいましたが、絶対にベトナム人に

切られたとは言わないのです。工事現場で、事故でケガしたとか言うのが普通です。ベトナムの黒社会のことをしゃべると、ベトナムに帰ったとしても、後で報復を受けるからです。

入管の施設ではとても美味しい食事が出されるのです。十年、二十年前と比べて入管はともきれいになりました、中も清潔で一日三食も出されます。必ずベトナム人がいるし、医者もいて病気になったら治療をしてくれるので、外で野宿するより入管の施設の中にいた方が絶対いいです。帰国したくない人も沢山いるのです。私も入管で働いているのでよくわかりますが、入管で職員はご飯を時間通りに食べることが難しいですが、被疑者は時間通りに食事をするができます。

法務省法務総合研究所国際協力部で働いたときに、いろいろな判例の翻訳の仕事をしました。当時私は日本語があまり上手じゃなかったので、うちの夫が助けてくれました。周りは、あなたは日本語が上手ですねと褒めてくれたのですけれども、幾ら言葉が上手でもやはり日本人が助けられないとできないのですよ。そういう事情でなかなか離婚できないのよ、本当に（笑）。私は独立することができたら、もう本当に何でも自分一人でできるようにしたいですね。でも関係があるから切れないのよ。私と日本の関係もそうですよ。日本で儲けたいから、日本からベトナムに帰ることもできません。ほかの人たちもそうですよ。ベトナムで働いたらあまりお給料はもらえないのだけれども、日本で働いたら五倍から八倍ぐらいもらうことができるから。どちらが良いですか、日本のほうが良いですよ。多少日本のことが嫌いでも、お金がもらえたら良い

ですよ、大事なですよ、生活をするには必要だからですよ。だからビジネスというのは必要なのでですよ。儲からないといけないのですよ。儲からないビジネスというのはすごく良くないですよ。だからあの手この手、どうすれば儲かることができるのかというのが大事なのです。

私はいろいろなところで働いてきましたが、JICAで働くためには、試験を受けなければなりません。私は頭が悪いから、何回受けても一番低いレベルのままですが、今の日本にはお金の余裕もないと思うので、今のレベルの給料で大丈夫です。高い給料で働いていたら予算が尽きて仕事自体が無くなってしまおうでしょう。それよりも、JICAで働いたおかげで、ベトナムから来るいろいろな団体と会うことができるようになったということが大事です。大阪市水道局とかいろいろところで研修の通訳をさせていただいております。最近では、ベトナムの政府も考え方がすごく柔らかくなって、いろいろな研修をいろいろな幹部の人たちに対して行っているの、日本の技術などを学んで、ベトナムで経験を生かして、それからベトナムの国のために生かそうとしています。私はJICAの関係の仕事を通じてベトナムのいろいろなことについて知識が増えてきたと思います。それからJICAの海外の事業で働いたときには、給料も良かったです。たくさんお金をもらえたのはよかったです。同時に日本の国民に対して申し訳ないという気もしました。今は、日本のいろいろな機関の予算が限られているので、通訳する時間も限られています。例えば警察の通訳では、昔と違って被疑者がトイレに行って待機している時間も、通訳の時間から削られてしまいます。そんな時代になりましたよ。私は、この仕事をしているお

かげで、初めの希望のとおり収入は増えましたけれども、本当は、ベトナム人がちゃんと真面目に日本で働いてほしいですよ。日本に迷惑をかけてはいけません。

いろいろな通訳の仕事をして、いろいろなベトナム人と出会って、いろいろなことが分かったのです。司法通訳、翻訳というのはさつきも話したように、警察、裁判所、検察庁、入管、保護観察、それから刑務所などで働きます。私はあらゆる仕事をやってきたので、いろいろなベトナム人と会い、社会で起こっている色んな事を知る機会がありました。皆さん、技能実習生制度はご存じですか。今日本にいる技能実習生と留学生、そして日本にいるベトナム人というのは、五十万人ぐらいいるのですね。ベトナム人が増えてきて、それで工場などで雇われているのですけれども、いろいろな問題があるのですよ。ベトナムで契約をしたときの条件と違う仕事を日本で作らされたりするか、人権侵害をされたという話をいっぱい聞きました。例えばベトナムで日本に来たら溶接の仕事させると言われて、でも日本にやって来たときにごみ処理場のところで働かされたりするので。実際に私が通訳を担当したもののの中には、本当にひどい事件もたくさんありました。ごみ処理場で働いて、社長がシヨベルカーを運転して、働いていたベトナム人にけがをさせてしまったとか。それから工場で働いているベトナム人が自分の会社のごみまで捨てなければならず、捨てるときに夜中なので、車に衝突されて、両足を骨折してしまうとか、入院したときに携帯電話を組合（外国人技能実習生受入組合）に没収されて、家族に連絡できなかったりとか、回復したときにそのまま強制送還されたりとか、そんなこともありました。罪を

犯したベトナム人が、警察が来たのを知って、川に飛び降りて、その後亡くなってしまったりするとか、そういうこともあったのですよ。また警察がやって来て、三階から一階に飛び降りて、体全体に大けがをしてしまって、人工の骨をつけるようになったとか。日本に来るのが楽しみで仕方なかった人が、帰りに車椅子でベトナムに帰らなければならなくなったこともありまして。そして、死亡してしまった例もあるのです。

この前も、あるベトナム人が突然私の携帯に電話をかけてきました。お兄さんが車の中で亡くなったのだそうです。どうしたら良いですかと聞くので、どうして亡くなったのですかと尋ねると、農業の仕事をやっていたのに、車の中が暑かったので死んでしまったのだということです。私はそんなことはあり得ないでしょう、大人だから暑くなったら、車のドアを開けることもできるでしょう、と言いました。でも、もしかしたら何か事情があったのかもしれないので、ベトナムの大使館に連絡してみたらどうですかと言いました。しばらくして、もう一度電話がかかってきて、大使館に連絡しても誰も電話に出てくれないから、どうしたら良いか分からないと言ったので、神戸ベトナム人会に連絡したのですよ。そこで色々と手続きをしてくれて、その後、お兄さんの遺体を埋葬することができたのでありがとうございますと言ってきてくれたのです。そのお兄さんがどうして自動車の中で亡くなったのか、いまだに謎のままです。

日本人とベトナム人の間の問題だけでなく、ベトナム人同士の喧嘩もよく起こります。その原因の一つは、組合の人が同じベトナム人を一つの狭い部屋の中に押し込んで入れて生活させる

からです。そのような環境では、お互いに嫉妬心がわいたりしてけんかになるのです。別のケースでは、一生懸命日本語の勉強をしたいという気持ちは分かるのですけれども、イヤホンもつけず勉強するので、友達とけんかをしてしまつて、友達から石を投げられて歯が全部なくなつてしまつたとか。歯の治療はけんかが原因の場合、日本では保険が出ないのです。それで歯の治療を受けないままベトナムに帰つて治療を受けなければなりません。ベトナム人同士のけんかで首の動脈が切れて、幸い一命を取りとめたというようなケースもありました。仕事中指が切れてしまつて、それで指をうまく動かすことができなかつたので、妻から離婚されたとか、労災も受けないまま強制送還されたとか、本当にいろいろなひどい話がありました。それから工事現場とか解体現場とか工場で働いていたときに、日本人から暴力をふるわれたという話も多いです。ベトナム人は日本人から乱暴な言葉をよく言われ、給料も安く、働いても残業代が支払われないとかで、結局皆さんその工場から逃げてしまふのです。

そのような悲惨な話はたくさんありますが、やはりベトナム人というのは、日本が好きなのです。日本で働いたらベトナムより五倍から八倍ぐらい高い給料がもらえるから、皆ここに来て働きたいのです。しかしそういう悪い事例がたくさん起こっているということは、何か根本的な問題があるようにも思います。全体から見るとこの制度というのは決して悪い制度ではありません。やはり日本では人手不足なので、ベトナム人がやって来て働くことになるのですけれども、ベトナム人が問題なのではなくて、どんな外国人を雇つても、やはり人材育成をしないと中途半

端な人間になってしまうのですよ。自分の子どももそうです。皆さんの周りの人たちもそうですよ。だから人材育成に注意をしないまま人を雇用すると、いろいろな問題が起こってしまいます。法律も含めいろいろなことについて理解ができる人間を育成しないとあまり良くないですね。お金がもたらえる前に死んでしまうというのはどうにもならないので。もし仮にそのような目に遭ったのが自分の子どもであれば、絶対に許すことができません。

技能実習生の制度ができてから三十年ぐらになりましたけれども、これまでいろいろな改善がされてきましたね。今は技能実習生制度が改善されて、特定技能制度ができました。その専門の知識のことについて話をしたらなかなか難しいのですが。外国人が日本で暮らすためには、二十九の在留資格があるわけです。そのうち留学生とか技能実習生は学ぶことが本分のはずですが、中には勉強だけをしに来るのではなくて、お金を稼ぐための手段として来日するケースもあります。働きたい人は、技能実習生として日本に来るのが一番良いのですよ。技能実習生は学ぶだけではなくて、働いてお金を稼ぐことがちゃんと保証されているはずなので。その意味では一番良い方法なのですけれど、多くの場合、人材育成の部分が抜けていることは、やはり日本の企業が悪いですね。いろいろなことについて本当のことを教えてあげないし、結局は、ベトナム人が悪いことをしてしまうように道を作っているように思います。技能実習を支えている関係者と結託して知らないふりをしているような気がします。例えば技能実習生というのは、日本に来て一つのところでしか働いてはいけません。一つの監理団体にしか所属してはいけません。

です。でも実際には、それ以外のところで仕事を掛け持ちする人もいます。土曜日曜になると掛け持ちをするし、自分で働いたお金を全部本国に送ってしまうのですよ。万引きをして節約をして、本当にずるい気持ちでいろいろなことをしている人もいます。周りの日本人に嫌われてしまう原因にもなっています。それはやはり日本に来て仕事に慣れていないから、ちゃんと真面目に誠意があつて勉強をすれば良いのですけれども、そういう勉強をする気持ちもなくて、すぐにけんかをしてしまうようなことが起こりやすいのです。一方で、日本の企業でも良い企業もたくさんあるし、悪い企業もあるのです。だからちゃんと人材育成をすれば、お互いに発展すると思います。日本は高齢社会で人手不足なので、もし人材を育成するのなら、ちゃんと教えてあげて、仲良くすればお互いに発展するのです。

ベトナムの人たちも皆一生懸命働いて本国に送金をしました。そして、家も建てられるようになりました。でもそれで終わってしまったて、それ以上努力する目標もなくなってしまうので、一部のベトナム人はギャンブルをしたりするのですよ。日本にいるベトナム人の一部の人たちは、日本にいる間によくギャンブルにはまってしまうのです。ベトナムには、サッカーのギャンブルとか、あとベトナムの丁半賭博の一種である「ソックデア」というギャンブルがあるのです。あと、ベトナムの数字当てゲーム「ローデー」という宝くじのようなものをよくやるのです。本当に一晚に二百万円とか三百万円ぐらい借金をしてしまふというベトナム人もいますのですよ。借金をした後、ベトナム人たちにすぐに監禁されて、「おまえ、本当にお金を返すことができなけ

れば殺すぞ」とか、「死体を海に投げてしまふよ」と言われることもあるそうです。全てのベトナム人がそのような犯罪をやめてくれればすごく良いのですけれども、残念ながらそういう事件が今後も頻繁になれば、日本の社会の中で大きな問題になっていくでしょう。携帯電話で借金したり、あるいは日本人と一緒に協力をして、高齢者からキャッシュカードを受け取りに行つて、その後暗証番号を聞き出してお金を引き出す役割を担つたりするか、日本人や中国人と連携して実行する事件が多くなつていきます。実際に私は殺人事件とか傷害事件とかいろいろな事件の法廷通訳の担当をさせていただきました。いろいろなベトナム人がいて知らないうちに犯罪に巻き込まれるケースもありますが、本当にそういう犯罪をすれば、日本の刑務所に長く入らなければならぬということ、あらかじめ教えてあげる必要があります。最近では、本当にすぐに実刑判決を受けることになるので、そういうことについてちゃんと教えて、人材育成をしないとイケません。

留学生の問題ですけれども、留学生は日本にやつて来て、一生懸命勉強をする人もいるのですけれども、あまり勉強をせずに在留資格を取つてずっと働くという人もいます。一つのところだけじゃなくて、掛け持ちをやって大体月に三十万円から四十万円ぐらいもらえる人もいるのですよ。家族滞在で結婚して、一人学校に行つて、一人が家族滞在になつて一緒に働いて、本当にベトナムに送金することができるので、本当に日本という国はまだ魅力があると思います。でも掛け持ちというのは学業との兼ね合いから見ても良くないと思います。留学生として日本に来て、

勉強をすること以外に週二十八時間までは働いても良いですけれども、二十八時間を超えて働いたら、資格外活動違反になって、捕まってしまうのですよ。強制送還される対象となります。

入管は本当に昔と違って、今はすごく優しくなって、入管の施設の中もそうですけれども、コロナのワクチンも受けさせてくれるし、それからご飯もちゃんとおいしく食べさせてくれるし、健康診断も行ってくれるので、本当にすごく良いですよ。だからこの制度というのは、うまくいくためにやはりベトナムの政府、それからベトナムの送り出し機関も理解していただき、ちゃんと技能実習生に対してきちんと人材育成をしておかないと、やはり日本に対して迷惑をかけてしまいます。それからベトナム人がたくさん失踪しているということで、もしかしたらこの制度が来年にもなくなってしまうのではないかと心配があるのです。私自身は技能実習生と関係ないですし、彼らが罪を犯したら私の仕事も増えて良いのですけれども、多分通訳の仕事ももうそろそろなくなるのではないかと思えます。通訳の仕事もこの頃私はほとんどやっていないのです。なぜかという、AIが発達するようになってから、ほとんど通訳の依頼がないのです。皆さん、自動翻訳を知っていますか。本当に自動翻訳機能があつてとても便利ですよ。下手な通訳さんより良くできるのですよ。

次に、コロナ禍になったときのことについて話をさせていただきますね。コロナが始まったとき、私はベトナムのフエ大学で日本語学校をつくったところでした。一方、日本でも大正駅のところビルを買って日本語学校をつくったのですけれども、ライセンスを申請することができな

かったのです。申請が却下されたので、五百万円ぐらい損失を受けました。ベトナムから持ってきた椅子とかいろいろな設備が使えなくなったから、廃校になりました。その後、コロナが本格的になって、結局フエ大学の日本語学校も続けることができませんでした。本当に膨大な費用がなくなりました。

そして、このことはあまり話さないほうがいいかもしれませんが、コロナの最中に警察からガサ（家宅搜索）を受けたことがあります。私は何も悪いことをしていませんが、自宅のパソコンや携帯電話などを押収されました。その日、私は兵庫県の姫路警察での通訳の帰りでした。今度は通訳ではなく、私自身が取り調べを受け、取調室の中ですごく怒鳴られたのです。しかし私も怒鳴り返してやりました。私は何も悪いことをしていませんので、結局疑いは晴れたのですが、その際も警察は、押収した物を取りに来て下さいねと言ったのですよ。私は、あなたたちが私の家から持って行ったので、持って来て下さいよと言ったのですが、人手不足を理由に持って行くことはできないと言われました。仕方なく私は夫と一緒に取りに行ったのですよ。私はその時に本当にシヨックを受けて、一気に白髪が増えてしまったのですよ。そのようなこともあったので、私は日本の警察とは二度と一緒に仕事をしたくないと言っていたのですが、ほかの警察から電話がかかってきて、「私たちは先生のことが必要ですよ」と言われました。でも、その後、警察での通訳は全てお断りしています。私の人生にはそのようないろいろなことがあったのです。

日本にやって来てからいろいろなストレスがあつて、四、五回ぐらい手術を受けたことがある

のです。今は子どもを産むことができませんが、幸い二人の子どもがいます。一人は大学を卒業した後カナダに留学して、この前ビザを申請して、苦勞してやっとビザを申請することができたのです。もう一人の息子は、今、慶応大学の法学部の三年生です。子どもは一生懸命勉強してくれたら良いですけれども、時々私は戒めの意味も込めてちゃんと勉強しないと駄目ですよ、あなたは大金持ちになるのではなくて、ちゃんと優しい子になってくださいねと言っています。

そんないろいろなことがあって、人生が嫌になった時に、ちょうど募集があつて、私は成田空港の近くのコロナ感染者の施設で働くことになりました。二〇二二年の二月から六月ぐらいまで、半年近く働きました。日本に来てからずっと、大阪を拠点にしていたので、初めて関東で長く暮らした数か月は、全く新しい環境で、仕事も普段と違っていて、いろいろな国の人と一緒に働いたおかげで、いろいろな嫌なことを忘れることができました。また、コロナはまだ収まっていますし、休みの日にはいろいろなところへ観光に行くこともできました。成田空港に着いたとき、コロナに感染していた人たちは、空港近くの施設に入らなければなりません。彼らは皆、すぐストレスを感じていました。私たちはどうすれば彼らのストレスを解消することができると考えました。優しい言葉で話しかけたり、いろいろな食べ物を準備したり、必要なものを用意したりしました。ベトナム語を使う仕事だけでなく、スタッフのための対応マニュアルも作りました。とても評判が良かったです。私は、感染者やその可能性がある人達に直接触れることはなかったのですが、特に医療関係の人たちの給料は本当に高かったです。私の他にも

ベトナム人やヨーロッパから来た外国人もいて、感染の可能性がある人に直接接する仕事をする人たちは、専門性の高い仕事でなくても、百万円以上の収入がありました。とくに、この仕事が始まったころはとても高かったです。私がJICAで働いた時給よりもすごく高かったです。私自身は、電話での応対が主で、直接接触がある仕事ではなかったので、給料は普通でした。それでも楽しかった。毎日お弁当が三回支給されました。おかげですごく太ってしまいました。

千葉から大阪に戻った後も、ずっと司法通訳、翻訳の仕事を継続し続けました。私は依然として検察庁、入管、法廷通訳、地方自治体の通訳の仕事、その他にもいろいろな仕事をしました。コロナが終わっていませんでしたが、前よりすごく仕事が増えてきました。警察に取り調べを受けたことも、その他の司法通訳には影響ありませんでした。その他にもハンドブックや辞書やエッセイも出版しました。新聞にも三回取材されて、つい最近、記事も掲載されました。千葉から戻ってきてから本当に通訳の仕事が増えてきたのですよ。それは私が優秀になったわけではなくて、残念ながらベトナム人の犯罪が増えてきたからだと思います。私は入管の仕事を二十年間ぐらいずっとやっています。このところ、毎日のように入管の通訳の依頼を受けます。一日四、五回ぐらい通訳の依頼があることも普通です。とはいえ、時間には限りがあるので、先に依頼された仕事を優先して仕事を入れます。報酬が高いか低いかに関係なく、入ってきた仕事をします。入管だけでなく、法廷通訳の仕事も増えました。大阪高等裁判所から、これまでに二、三回研修会の講師として依頼されました。来年の一月にもまた研修会の講師をすることになって

おり、シナリオの準備とかいろいろなことをしないといけないのです。

私の話はちょっとでたらめなように思われるかもしれませんが、なぜそのような話し方をするかというと、スムーズに話したら皆さんが退屈になってしまうからです。それも生きるという、テーマに関する技術の一つなのです。わざと相手を責めるときとか、相手を喜ばせるときとか、相手を怒らせるときとか、いろいろな技術があるのです。それらを調和しながら話をさせていただきますので、決して私がでたらめしているわけではなくて、皆さんが今日は眠たくならないように、私は上手に楽しくしゃべりたいと思います。また私がしゃべっている途中に何か質問があれば、遠慮なく聞いてください。それから誹謗するのも良いですよ。私は叱られるのは大好きなのです。けんかをするのも好きです。けんかをしたら私は必ず勝ちますよ。私が民事事件の法廷通訳をするときには一〇〇%勝ちます。私が刑事事件の通訳をしたときに、有罪が無罪にひっくり返ったこともあったのです。本当にそうですよ。あるとき無罪になったベトナム人が私に感謝して、ぜひ来てくださいねと言われたことがあります。でも、司法通訳人は、被疑者と連絡をしたり、あるいは接待を受けたりしてはいけないのです。だから私はそれも断りました。

先ほども言いましたが、最近は入管の仕事がすごく多くなっています。理由は逃亡して不法滞在のまま働いているベトナム人が増えたからだと思います。コロナがあったので、日本からベトナムに帰国をすることができないからです。コロナの間、入管では特別な在留資格を申請して、コロナが無くなるまで一定期間ごとに更新することができました。そして、一定の条件のもとに

働くこともできました。コロナのときにベトナム人たちは、ウーバーイーツの仕事をよくしたのですよ。ウーバーイーツというのは商品が注文されたら、バイクで配達する仕事です。しかし、コロナが落ち着いて飛行機の便が再開されても帰国しないベトナム人がおり、そのまま日本に滞在してオーバーステイになってしまっているのです。そのような人はお金がなくなつて、帰国しなくなつてもできなくて、日本で不法就労して生活せざるを得ないのですね。入管は、オーバーステイとなつているのは誰か、どこに住んでいるのか、大体情報が分かっています。一方、オーバーステイになつたベトナム人は、自分の在留カードでなく偽の在留カードを使うことがあります。他人の在留カードでその人になりすまして仕事をするとか、在留カードだけじゃなくて、銀行のキャッシュカードとか印鑑とかパスポートとかいろいろセットで持っていて、仕事の面接をするときに使うのです。このように、コロナが落ち着いても、本当は帰国しないといけないのに不法残留となつているベトナム人がとても多いので、彼らが捕まったときに大阪からとは全然違う地方の入管から電話通訳の依頼があるのです。朝早くからガサ（家宅搜索）が行われます。早朝に行かないとベトナム人が仕事に行つてしまうので、逮捕をすることができないのです。早いときには、朝五時か五時半ぐらいに入管から電話がかかってきて、通訳はだいたい午後の一時から二時ぐらいに終わるのです。そして、私は入管の仕事が終わつてからまた別の仕事をしたりするので。

日本にやつて来て、一番よかつたと感じていることは仕事があつて、収入を得ることができた

ということですが。これは、今日本に来て多くの若いベトナム人と同じかもしれません。それはそれで本当に良かったのですけれども、もしベトナム人の犯罪がなければ、もっとほかの社会にとって役に立つような仕事もできたはずだと思っっています。もともとの私の希望は看護師になることでした。一時は日本で看護師になる努力もしていました。だから、ただお金を儲けることができれば良いということでもありません。本当を言うと、私がしている司法通訳の仕事は、一刻も早く無くなってほしいですね。ベトナム人がちゃんと犯罪をせずに日本の法律を守ってやっていたらいいですね。それからちゃんと良い人材だけを日本に連れてきて、ちゃんと日本人と一生懸命コミュニケーションができる人、日本の社会に対して貢献できる人、ちゃんと正當に働いて、日本に税金を納めることができる人、そして、ベトナムにも貢献できる人、そんな人たちが日本の社会で働いてくれるならば一番良いですけれども。今のままではやはりベトナム人がいろいろな事件、事故に巻き込まれてしまうことが多いと思います。それだけではなく、日本に來てから逃亡したり、犯罪に関わったりするようなことをあらかじめ想定してから日本に來る人もいるのです。

それから、労働力が安いから日本の企業もベトナム人を雇ったほうが良いと思っっているわけですが、一方で逃亡のリスクがあるのも分かっているはずですが、皆、自分にとって利益があると思っっているから、技能実習生や日本語学校の制度が続いているわけですが、現実に起こっている問題の背景には、ベトナムの政府、日本の政府、日本の企業、そして、日本に來て罪を犯すこと

になるベトナム人のそれぞれに、考えが足らないところや、あるいは賢いともいえるところがあると思います。だからどうすれば良いかといったら、いろいろな問題の背景についてお互いに理解し、本気で改善のための方策を考えることです。

そして、日本人とベトナム人は違うということについても理解する必要があります。例えば、ここにやって来ているベトナム人というのは、皆さんほとんど電話のSIMを使わないのですよ。WiFiを使ってコミュニケーション用のアプリを使うのです。アプリというのは例えば、LineとかZaloとかフェイスブックとかのSNSですね。それを使ってやり取りをするのです。捕まったときにも本当に携帯電話も使うことができないのです。入管の人がいつも捕まったベトナム人に言うのは、後から携帯電話を使うことができないから、今のうちに必要な人の電話番号を抽出して、入管の中でテレフォンカードを買って公衆電話を使って電話をかけるようにということですよ。でも日本に住んでいる知り合いのベトナム人は、携帯の番号を持っていないので、公衆電話では連絡できません。SNSを使ったネットワークでは、ベトナム語だけでやり取りされていて、就職のあっせんや家の紹介、ベトナム人用のお店の紹介、そして黒社会のサービスやギャンブルなども含まれています。良いものも悪いものも含めて、日本のベトナム人コミュニティの生活基盤になっています。

それから、ベトナム人にとつてのスポーツというのも日本とは違います。ベトナムには、子どもから大人、お年寄りまで楽しめるいろいろなスポーツがあります。たいてい、すごくシンプ

ルなスポーツです。サッカーが一番有名です。私もサッカーは楽しくて好きですね。昔はベトナム人は、すごく純粋にサッカーが好きでした。でも今は、先ほども言いましたように、そのサッカーがギャンブルの対象になってしまいう時もあるのです。借金をしてサッカーの試合に賭けてギャンブルをするのですよ。サッカー賭博をして、負けた人は借金を返せずに、自殺したり、殺されたり、監禁されたりすることもあります。昔は海外に行ったベトナム人は、一生懸命働いて、ベトナムに送金して家を建てました。人生の最大の目標というのは家を建てること、結婚することでした。でも、日本で働いている今のベトナム人を見ると、家を建てる前に、目標を見失って、ギャンブルに走ってしまいう人もいるのです。そのうちたくさん借金をして、犯罪に関わってしまうことになりかねません。そうなると、日本の刑務所に入ってしまう、運が良くても強制送還されてしまいうことになるのです。

もう一つ、私が日本に来た時と比べて変わってきたのは、日本とベトナムの関係です。今のベトナムは、経済がすごく発展してきました。日本より良いところもたくさんあります。税金も安いのです。ただ一つだけ良くないことは、ベトナムで働いたらまだ日本と比べて給料が安いことです。日本で働いたらベトナムより五倍から八倍の給料がもらえます。だから、ベトナム人は本当は日本がとても好きなのです。本当に誰も日本から出ていきたくないのですよ。日本の食べ物も安全でおいしいですね。例えばブドウとかもすごくおいしいです。ベトナム人はシャインマスカットとかがすごく好きなのです。あと種なしのミカンとかも好きです。あと、日本のサバ

も好きなのです。やはり日本が好きなのですよ。

日本にやって来て、技能実習生と留学生とか我々もそうですけれども、まじめに働けばいろいろな技術を確かに身につけることができるのです。もし私が日本に来なければ、今回このような講演をすることもできませんでしたし、やはり日本に来て勉強をしなければならないということを意識したから今の私があります。実はベトナムでは、例えば私の田舎では、まだ上下水道ができていません。私の田舎では雨水を使っています。ベトナムでは上水道がまだできていないところもたくさんあります。確かに技能実習生制度にはいろいろ問題がありますが、それでもベトナム人から見たら魅力的に見えると思います。本当にこの制度を良いものにして、日本の技術を学んで両国の社会に生かせるようにするためには、改善が必要だと思うのです。

逆に日本は、いろいろな意味で貧しくなってきたような気がしますね。私の知っている日本人はほとんど貧しくて、私よりあまりお金がないような気がします。日本人も自分のことについて本気で考えないといけないと思いますよ。とてもよくないと思います。家もぼろぼろだし、雨漏りがひどい家もありますね。また高齢者の人たちは施設の中に入って、長い人は一年間から二年間、短い人は三か月間ぐらい動かしてくれないということも聞いたことがあります。私はもし歳をとったときに日本で生活したら、子どもたちは私のことに興味関心を持ってくれないから、高齢者施設に入れられるのではないかと心配しているのですよ。皆さんも実は心配していませんか。今はちよつと皆さんが眠らなくなった感じなので、ちよつと聞きたいのですけれども、今ベトナム

ムの首相は誰ですか。ほとんど興味関心を持っていないですね。でもビジネスをするときに政治は関係があるのですよ。全く関係していないわけではないです。いろいろなことについて知っておいたほうが良いですよ。何でも知って理解したほうが良いです。今はインターネット時代です。YouTubeもたくさん見られるようになりました。何を聞いても私は知らない分からないと言っていたら何もできません。ちゃんと勉強をしてくださいねと、私は子どもたちを厳しく厳しく育ててきたのですよ。私は今も毎日インターネットでいろいろなプログラムを日本語や英語で見えています。単に知識が増えるということではなく、今まで断片的に知る機会があったことが、もっと大きな問題の中にどのように組み込まれているのか、少しずつ理解できるようになっています。私は、子どもたちにちゃんと勉強をしてくださいねと言ってきましたが、どのように勉強して理解しなければならぬのかということをお教えしなければならぬと思います。

「生きること」というのが今回のテーマですけれども、子を育てるとか、それから社会のいろいろな市民の教育とかはとても大事なのです。でも一番大事なのは家の中です。家族の中でお互いに興味関心を持って、それから人材育成をするというのがすごく大事なのです。家族の中で何も問題がなければ社会問題にはならない、人にも迷惑がかからないというのもすごく大事なのです。ベトナムがフランスの植民地にされた時に、ホーチミンのようにこのままではいけないと思った人たちがいて、国を独立させ、発展させてきました。日本も同じです。日本はアメリカの同盟国家と言われていますが、私の目から見ると本当は植民地にされていると思います。

皆さん税金が高いでしょう。本当に日本は税金が高いのですよ。物価ももうちょっと安くならないと、私も今スーパーでほとんど半額のものしか食べていませんよ。私が経営している民泊でも皆さんに食パンを提供しているのですが、お客さんが食べなかった賞味期限になっているパンは捨てるのもったいないから、自分で食べています。私も仏教徒なので、あまり肉を食べないようにも思っています。いつも食パンを食べるのですけれども、そのおかげですごく元気なのです。でも食べ物や生活のために必要なものは、もうちょっと安くしないと駄目だと思いますよ。他の国に支配されて無駄なことをさせられるのは本当に良くありません。日本人はもっとシンプルに生活できると思います。

私は通訳をしたときに、接待の場にいることがよくありましたけれども、私は食べたことがないのですよ。私は通訳のお仕事なので、接待をされたくないし、食べたくもないし、食べながら通訳をすると失礼なので、私は絶対に食べません。昔、私はきれいだったのですよ。今は高齢者になったのですけれども、見てくださいよ、後ろも前もぼろぼろです。だから昔よく誘われたことがあったのですが、私は絶対に誘いには乗りません。自分で悪いことをしなくても、派手なことをしたら、必ず出る杭は打たれます。だから私は質素な生活がしたいのですよ。私は地味な生活がしたいのですよ、皆さんと仲良くしたいからです。だから派手なベトナム人を見ていると時々腹が立つことがあります。あなたの方が綺麗よとか、あなたの方がかっこいいよとか、そんなことばかりを言っている人は、ばかばかしいと私は思っているのです。まじめに働いてい

る人がたくさん税金を払って、その税金が戦争や無駄な工事などに使われないようにしてほしいです。オリンピックも要らないですよ。本当に必要なことだけをしたら良いと思います。要らないものをつくったり、あるいは海外に無駄な支援をしたりすることもやめて、まず自分の国民に對して優しくすることですね。ベトナム人も日本人も悪いことをやめて、今戦争もやめてそういうことをしないと、いつまでも幸せにならないですよ。生きるということは、やはり楽しく幸せに生活しないと意味がないです。

遠くに行つて戦争を起こしたり、美味しいものを求めて旅行したり、ずっと海外にいて自分の家族をほったらかしにするようなことをしたりしてはダメです。ちゃんと自分の家族を大切に、できるだけ身近なことからちゃんとできるようにならないと、遠いところを見すぎて、身近なおことをおろそかにしたら駄目なのです。日本もいろいろなところから、中国からいろいろなものを輸入してきているのですけれども、さつき私が話したように、メイドインジャパンのものを取り戻さないといけない。それから農業もそうですよ。琵琶湖の周りの山のところとか箕面の奥とかいろいろなところにたくさん土地があつて、使われていない土地も多いので、そういうところもちゃんと利用できるようにして、若い人たちがお年寄りの人たちと一緒に農業をして、お年寄りの人が若い人たちに生きる意味、つらいことも含めて、いろいろなことを教えてあげないといけないですよ。

若い人たちに働かせて、搾取をすることも良くありません。だから私はそういうことも考え

て、絶対に日本に迷惑をかけない、それから子どもたちにも迷惑をかけないと思っています。私はしゃべるのが好きなのです。毎日しゃべって、たくさんしゃべったら元気になるし、人生を楽しむことになりますので、マスクを外してたくさんしゃべったほうが良いですよ。私のお母さんは今年で九十六歳ですけれども、鶏の骨まで食べられるのですよ。ベトナムの私のお母さんの歯は真つ黒ですよ。フランス植民地時代から影響されて、それで歯を黒くしないと美人じゃないと思っっているからです。髪の毛も長いですが、今の人たちは髪の毛も短くてすぐに染めてしまうのですよ。私は染めたこともないし、ウェーブもかけたことがありませんよ。本当に私は自然が好きなのです。今日は皆さんに会うためだけにアオザイを着ていますが、本当は恥ずかしいのですよ。ごめんなさいね。

ありがとうございます。ここで発表を終わらせていただきたいと思います。本日はお忙しいにもかかわらず、この会に参加してくださり、心から深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

(拍手)

○司会 チャン・ティ・ヒエンさん、ありがとうございます。

○チャン・ティ・ヒエン ありがとうございます。

○司会 すみません、お時間がちょっと押ししてしまいましたけれども、どうしてもご質問があれば伺います。

○男性 なかなか厳しい現実の話聞かせていただきました。

最後に、ベトナム語で「こんにちは」、そして「ありがとう」を教えてください。

○チャン・ティ・ヒエン では、皆さん、「シンチャオ」。また会いましょうというのは、「ヘンガップライ」、皆さん、覚えましょう、しゃべったら今日元気になりますよ。「ヘンガップライ」、それから私から一つ教えましょうか、「ベトナムホーチミン」、そうそう、それを覚えていただければ良いですよ。

○男性 「ありがとう」は。

○チャン・ティ・ヒエン 「カムウン」。

○司会 ありがとうございます。

現在日本には三百万人を超える外国人の方が暮らしていらっしゃると思います。言葉とか習慣とか生活のスタイル、それから目的とか様々でしょうが、チャン・ティ・ヒエンさんのお話にもありましたように、異なるいろいろなところで暮らすということはとても大変なことであり、孤独や不安などから自分の生活のリズムをどうしても乱してしまうという方も当然いらっしゃるかと思います。そうした中で同じ母語を、同じ言葉を話す方がいる、通訳をしてくださる方がいる、自分の気持ちとか思いを代弁してくださる方がいるというのは、とても異国の地では力になり、また大きな安心感で救われる方というのをもたくさんいらっしゃるかと思えます。本日はそういったお話を聞くことができたり、体験されたことをお話いただきました。また、お話の中のこと、必

ずしもそうだった方ばかりではない、そういった会社ばかりではないということだけをちょっと申しておきたいと思えます。大変貴重で有意義な時間を過ごすことができました。

チャン・ティ・ヒエンさんにもう一度大きな拍手をお願いします。

今日はありがとうございました。

(拍手)

○チャン・ティ・ヒエン 本当ありがとうございました。

○司会 それでは、本日の講演はこれで終了していききたいと思えます。

今日はありがとうございました。

